

令和5年夏の高温・渇水の状況と対応について

- 令和5年は、梅雨明け以降、北・東日本を中心に記録的な高温で推移。
- このため、出穂期以降の高温による白未熟粒の発生などが懸念された各県においては、品質低下を防ぐための追肥や水管理・適期収穫等の対応を強化。加えて、一部地域では少雨による渇水のため、灌水(※)や消雪用井戸の活用等も実施。
- 地球温暖化に伴い高温傾向が続くことが見込まれることから、高温耐性品種の拡大を進める必要。

※灌水：用水の受益地区をいくつかに分け、区分した地区ごと、または圃場ごとに順番と時間を決めて、数日ごとに配水する方法。

【高温・渇水による農作物への影響】

・米：白未熟粒の発生



・トマト：裂果の発生



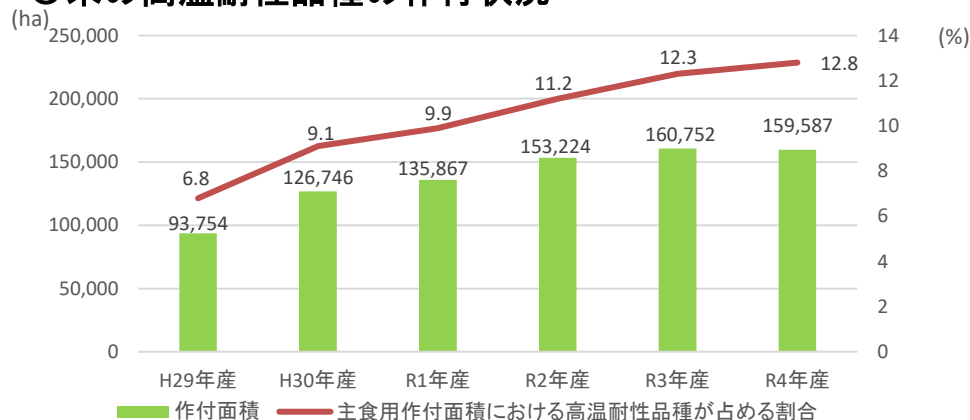
・リンゴ：日焼け果の発生



【高温・渇水への対策】

- ・高温耐性品種の導入
- ・土づくり、追肥、水管理、適期収穫等の高温対策技術の実施
- ・灌水、消雪用井戸の活用、排水の反復利用等の渇水対策技術の実施

○米の高温耐性品種の作付状況



品種名	作付面積 (令和4年 産)	作付けの多い 上位3都道府県	品種名	作付面積 (令和4年 産)	作付けの多い 上位3都道府県
きぬむすめ	22,656ha	鳥根、岡山、鳥取	さがびより	6,060ha	佐賀
こしいぶき	19,600ha	新潟	ゆきん子舞	5,200ha	新潟
つや姫	17,303ha	山形、宮城、鳥根	ふさおとめ	4,800ha	千葉
ふさこがね	11,900ha	千葉	なつほのか	4,058ha	長崎、大分、鹿児島
あきさかり	7,658ha	広島、徳島、福井	新之助	4,000ha	新潟
にこまる	7,495ha	長崎、愛媛、岡山	雪若丸	4,000ha	山形
とちぎの星	7,200ha	栃木	てんたかく	3,802ha	富山
彩のきずな	6,500ha	埼玉	その他	21,185ha	
元気つくし	6,170ha	福岡	計	159,587ha	

出典：農林水産省「地球温暖化影響調査レポート」

※1 高温耐性品種とは、高温にあっても玄米品質や収量が低下しにくい品種で、地球温暖化による影響に適応することを目的として導入された面積について、都道府県から報告があったものを取りまとめたもの。

※2 作付面積には推計値も含まれる。

令和5年産水稻うるち玄米農産物検査結果（令和5年12月31日時点）

- 令和5年産米の検査数量は、12月末現在382万トン（前年同期388万トン）。前年の検査数量452万トンと比較して84.5%の進捗率。
- 高温・渇水の影響による白未熟粒の発生等により1等比率は全国で61.3%（前年同期78.6%より17.3%低下）。
- 一方で、高温耐性品種の検査等級は、1及び2等の比率はおおむね9割以上。

【全国の検査結果に占める1等比率】

	5年産	4年産	3年産	2年産	元年産
8月末現在	68.9	68.0	76.1	74.3	67.8
9月末現在	59.6	75.8	82.6	80.7	67.6
10月末現在	61.3	79.4	83.6	80.8	72.9
11月末現在	61.2	78.7	83.1	80.3	73.1
12月末現在	61.3	78.6	83.1	80.1	73.1
最終	-	78.6	83.1	79.8	73.2

※元年産～4年産の最終は確定値

【N県における品種別検査結果】

品種名	高温耐性	検査数量 (トン)	等級別比率 (%)			
			1等	2等	3等	規格外
コシヒカリ	なし	254,649	5.0	42.0	49.5	3.5
こしいぶき	あり	76,460	14.0	47.0 75.8	9.8	0.4
ゆきん子舞	あり	22,085	61.6	89.8 53.7	3.9	0.8
新之助	あり	23,587	94.7	95.3 4.5	0.2	0.5
にじのきらめき	あり	5,309	17.8	99.2 72.3	9.3	0.7
			90.1			

※四捨五入の関係で合計値が一致しないことがある

【1等比率の前年同期比較】

- 30%以上の減
- 10～29%の減
- 10%未満の減
- 10%未満の増
- 10～29%の増
- 30%以上の増

